

事業番号	09 04 25	事業改善シート (27年度実施事業分)			<input type="checkbox"/> 予算要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input type="checkbox"/> 補正予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	酪農生産性向上対策事業				担当課	部局	農政部	
総合5か年計画	プロジェクト				課・室	園芸畜産課		
	施策の総合的展開	1-3 夢に挑戦する農業 2 自信と誇りを持てる信州農畜産物の生産			E-mail	enchiku@pref.nagano.lg.jp		
					実施期間	H26 ~		

1 事業の概要

目指す姿	<p>○新鮮・安全でおいしい長野県産牛乳を県民に提供するため、健康的な乳用牛から品質の高い生乳が生産されている。</p> <p>○持続的な酪農経営を展開するため、乳用牛の健康管理に基づく繁殖管理により、高能力後継牛の生産や受精卵移植による和子牛生産が効率的に行われ、収益性の高い酪農経営が実践されている。</p>							
現状 (予算編成時)	<p>○生乳生産現場では、衛生的で安全な生乳の生産を目的として、チェックシートによる生乳生産管理制度や酪農家ごとの乳質検査、乳質を基準とした評価額制度などの取り組みが行われているが、乳質評価プラス農家は酪農家の約70%程度である。</p> <p>○各々の酪農家で受精卵移植による和子牛生産等の取り組みが行われているが、乳用牛の健康管理等で科学的根拠に基づいた検討がされておらず、必ずしも効率的な酪農経営に結びついていない。</p>							
県が関与する理由	県関与の必要性あり	【左記の説明、根拠法令等】						
	県民との協働による実施： 実施中	生産組織等と連携しながら高度な専門的知識を持った職員が検査や農家指導等を実施していく必要がある。 ・酪農および肉用牛生産の振興に関する法律 ・家畜改良増殖法						
成果目標・事業内容	① 成果目標 (H27)							
	<p>○長野県産牛乳の乳質が向上する乳質評価が標準以上の農家率 (乳質評価プラス農家率) 76%</p> <p>○牛群ドック実施農家の飼養管理技術を改善し健康状態が向上する 改善した農家率 80%</p>							
	② 事業内容 (単位:千円)							
		項目	実施方法	H27事業実績		H27 (当初)	H27 (決算)	H28 (当初)
		バルク乳検査	直接	バルク乳細菌検査・牛のウイルス性下痢粘膜炎検査 (608件)		1,583	1,536	1,583
		牛群ドックの実施	直接	血液生化学検査、飼料成分分析		1,731	1,653	1,731
	検討会・研修会の開催	直接	個別検討会、スキルアップ研修会 (2回)		287	222	287	
	生産性向上フォローアップ	直接	飼育環境の快適性向上指導・搾乳体系の改善指導		832	808	832	
			合計		4,433	4,219	4,433	

事業コスト	区分 (単位:千円)	25年度	26年度	27年度	28年度
	前年度繰越				
	当初予算	-	3,893	4,433	4,433
	補正予算				
	合計 (A)	0	3,893	4,433	4,433
	一般財源				
	県債				
	国庫支出金		402	923	923
	その他	0	3,491	3,510	3,510
	決算額 (B)	-	3,879	4,219	
概算人件費	職員数 (人)		1.19	1.19	1.19
	概算人件費 (C)	0	9,827	9,848	9,848
概算事業費 (B)+(C)		-	13,706	14,067	14,281

成果目標の達成状況					
項目	H26末 (実績)	H27			H28 目標
		目標	成果	達成状況	
乳質評価プラス農家率	74%	76%	76%	達成	78%
改善した農家率	80%	80%	80%	達成	-
生産性向上フォローアップ取組農家	-	-	-	-	30戸
平均分娩間隔の短縮	-	-	-	-	10日

目標に対する成果の状況	酪農の生産性向上を支援したことにより、乳質評価が標準以上の農家率及び、牛群の健康状態が改善された農家率ともに目標を達成することができた。
-------------	--

2 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施
	今年度の事業実施により、あらためてクローズアップされた課題 (環境ストレス、搾乳体系の不適等) に対して取り組めるよう事業内容を拡充し、酪農生産基盤の強化に向けた支援を行う。